

組織概要

名称	長野森林組合
代表者	代表理事組合長 和田 智
設立	平成13年(2001年)
組合員数	13,821名
出資金	331,362,500円
役員	理事21名・監事3名 職員 28名 技能職員 49名 (令和5年4月現在)

職種の紹介

技能職員

木を植えるところから、下草刈りや枝打ちなどの木が大きく育つまでの環境整備をしたり、大きく育った森林の木をチェーンソーや林業機械を活用し、伐採して運び出すところまで幅広く業務があります。

また、松くい虫の被害にあった木の伐採・くん蒸作業や公園等の除草作業を行うこともあります。

一般職員

組合員が所有する森林を整備するために、作業エリアの取りまとめや現場管理等の仕事が中心ですが、建設業者や一般の方から依頼された支障木伐採作業などの仕事も行います。主に事務作業がメインとなります。

また、森林作業で使用するものや各種キノコの種駒などの購買品の取扱いもしています。

採用案内ページはこちら▶

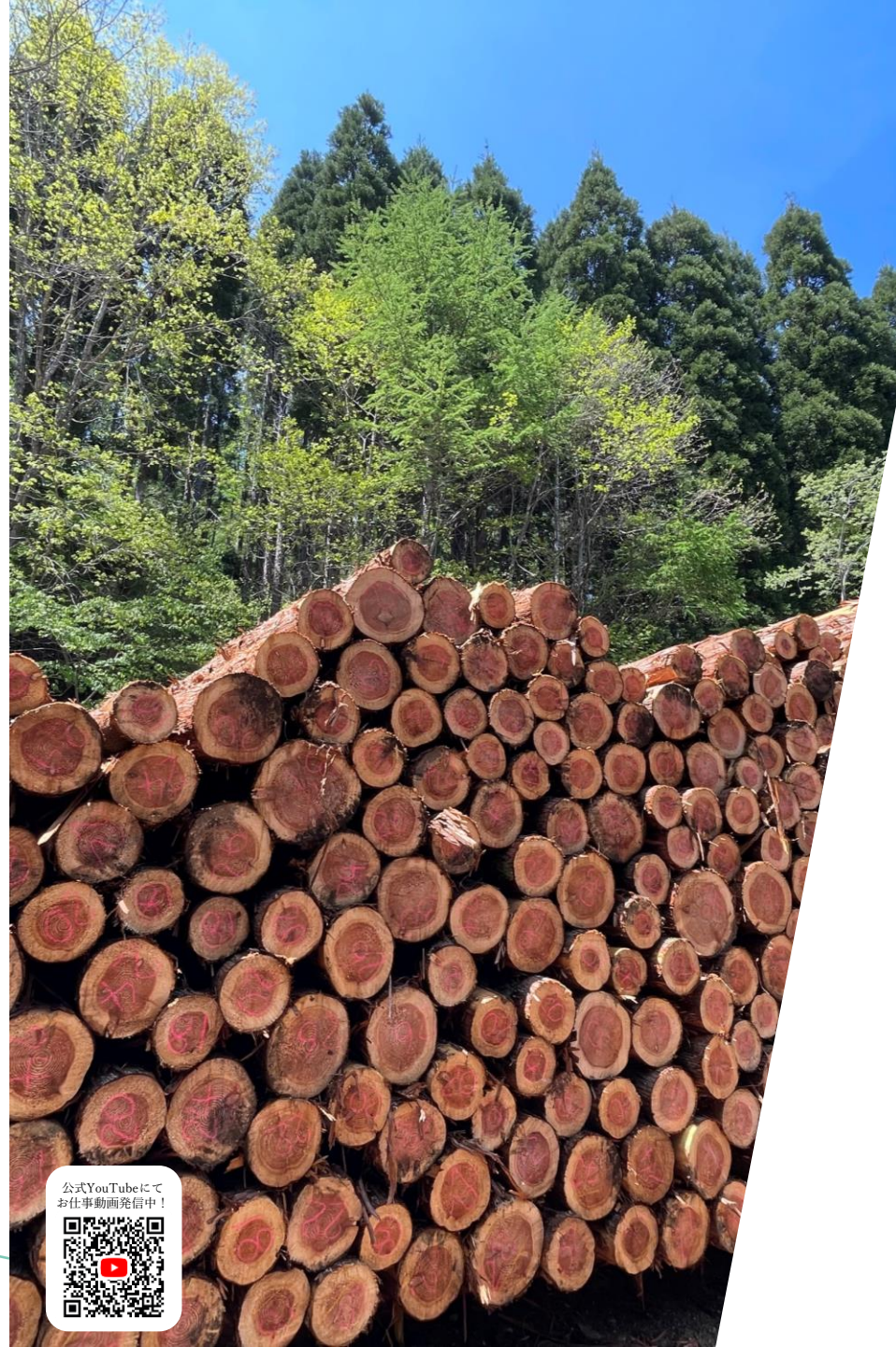


●応募・問い合わせ先●

〒380-0915

長野県長野市大字稲葉字上千田沖134番地2

TEL / 026-217-8822 Mail / nagano-sinkumi@an.wakwak.com



JForest

長野森林組合

RECRUIT GUIDE



SDGs
REGISTERED PARTNER
NAGANO PREFECTURAL
GOVERNMENT

長野森林組合は「長野県SDGs推進企業」として登録されています。

公式YouTubeにて
お仕事動画発信中!



森林を育み、
森林の恵みを活かす。

長野森林組合の管内である長野地域は長野県の北部に位置し、面積の80%以上が森林の緑豊かな地域です。森林は私たちの生活に欠かせない水源涵養や木材生産だけでなく、生物多様性、地球環境の保全など重大な役割を担っています。その公益的機能を維持していくためには健全な森林の整備が必要不可欠となっています。森林の恵みを使うだけでなく、守り育て、次の世代へ豊かな森林を託す。それが長野森林組合の仕事です。

▶間伐後の60年生のスギ林



戦後に植林された森林資源の多くは“収穫期”を迎えています。伐って使って、植える。木材の有効活用による炭素の固定効果だけでなく、高齢の森林を若返らせることにより二酸化炭素の吸収量が増えます。木を使うことは環境への負荷軽減にも繋がります。

▼新たに植えられたカラマツの苗



森林を育てる

森林を使う



木を伐るとのこと

適切に管理された森林で育った森林資源を搬出する生産現場では、多くの高性能林業機械と呼ばれる大型の先進的な重機が活躍しています。安全かつ効率よく作業を進めていくことは、生産性の向上にもつながります。

他にもドローンによる空撮などをはじめとした最先端のICT技術を取り入れ、生産・流通管理を行うなど、木材の生産者として需要に応じた木材の供給を推進しています。

◀高性能林業機械・フォワーダによる集材作業



森林の整備の推進には木材の利活用が欠かせません。長野森林組合は長野地域の森林で生産された木材の加工を進め、地産地消だけでなく首都圏への流通拡大にも取り組んでいます。

▲長野市産材を使用したJR長野駅善光寺口の大庇